

12/24  
～1/7

## 中学生が土谷棚田に LED を点灯

福島地区青少年健全育成会（前田伸二会長）

まちの話題



新型コロナウイルス感染症の影響を受け、ここ数年地域のさまざまなイベントが中止になる中で、地域の子どもたちにまちの魅力をもう一度感じてほしいと、土谷棚田でのLED点灯体験が市の共催で企画されました。

点灯初日の24日の午後には、福島中学校生徒17人や保護者・市職員などがLEDの組み立てを体験。引き続き約6,000球のLEDを土谷棚田一帯に手分けして設置しました。

設置後、中学生は、同育成会役員・保護者らが準備した軽食やレクリエーションを楽しみながら、LEDの点灯まで待機。午後6時の点灯式では土谷棚田を彩るように花火が打ち上げられました。

参加した生徒は「久しぶりに地域イベントの雰囲気味わえた。みんなとも交流できて良かった」とふるさとの魅力を肌で感じていました。

LEDは1月7日まで点灯され、住民や年末年始に帰省した人たちが訪れました。

1/8  
(日)

## 新春の福島路を駆け抜ける

第67回福島町一周駅伝大会



福島町内チームを参加条件に3年ぶりの開催となった大会には、6チームが参加し、8区間、23.97kmで健脚を競いました。

福島港ふれあい広場前をスタートした選手たちは、沿道の声援を受けながら、澄み切った新春の風を切り、たすきをつなげていきました。

上位の結果は次のとおりです。

- 【優勝】 伊万里釜 1時間40分53秒
- 【準優勝】 福崎 1時間44分43秒
- 【第3位】 里 1時間46分50秒

1/7  
(土)

## 防火・防災への気持ち新たに

令和5年松浦市消防出初式



文化会館にて規模を縮小して開催された式典には、松浦市消防団（谷口哲男団長）の団員350人が参加しました。

谷口団長は「昨年の建物火災では、早期の対応と共に、団員が一丸となって、消火にあたったおかげで、大火にならずに済んだ。今年も市民の皆さんの安心安全な暮らしを守っていけるよう団務にあたりたい」と訓辞を述べました。

式典終了後、志佐川へ向けて消防車6台による一斉放水が行われ、今年一年の防火・防災への意識を新たにしました。

1/9  
(月)

## 一年の決意新たに

令和5年松浦市武道始め式



この催しは、武道の繁栄と青少年の健全育成、新春の決意を新たにすることを目的に平成20年から行われています。

この日は、剣道、空手道、国際空手道の競技者約30人が集結。それぞれの競技ごとに演武を披露しました。

競技者を代表して国際空手道の益田湊真<sup>そうま</sup>さん(御厨小5年)が「今年は6年生になるので、先のことを考えて行動していきたい。新しい形も覚えたい」と抱負を述べました。

1/8  
(日)

## 縁起の11(いい)、矢が的中

市無形文化財 百手講(ももてこう)



庄野地区の王嶋神社で、的に当たった矢の数でその年の豊凶を占う伝統行事「百手講」が行われました。

今年は大庭浩史さんと松永偉人<sup>たけひと</sup>さんが射手を務め、10本先の直径50mmの的めがけて矢を放ち、50本中、11本が的中。中川明宏宮司は「11本的中したのでいい年になる。今年も豊作間違いありません」と今年の豊凶を占いました。

人生3回目の射手となった松永さんは「縁起がいい本数が当たり良かった」と話しました。

1/13  
(金)

## 地域の行事を子どもたちに

上志佐小学校「もぐら打ち」



この学習は、昔ながらの伝統行事を体験してもらい、地域の魅力を感じてもらい、後世へ伝えていってほしいとの思いで、地域から講師を迎え毎年開催しています。

この日は、松本秀雄さん(志佐・笛吹)が講師となり、同小1・2年生13人が体験。「14日のもぐら打ち、餅やらんもんはしわんぼう、五穀豊穰、無病息災、今年も頑張るぞ」とみんなで声を合わせながら、グラウンドを2周たいてまわりました。

1/11  
(水)

## 1年の無病息災を祈願

大般若



志佐町里地区では還暦と厄入りを迎えた住民らが交替で重さ約10kgの木箱を担ぎ、「だいはんにゃー」と掛け声をかけながら区内の約200戸を1日かけて回りました。

この行事は、江戸時代に疫病がまん延したときに大般若経を祈祷して一帯をまわり、疫病がおさまったことに由来するものと言われています。各家では、担ぎ手にお酒などを準備して出迎え経箱をくぐり、家内安全と無病息災を祈りました。